

「税金が生み出す世界」

久喜市立栗橋東中学校

三年

清水

杏純

私は今まで税金に対して「税金がなければ少しは安くなるのに」としか考えたことがなかった。しかしこの作文を書くにあたって税についての動画を見たところ、税について理解が深まったように感じた。

私たちが払っている税は身近なところに現れている。たとえば学校、図書館などの公共施設、道路、橋など。それらは国や県に納めた税金によって建設された。また、私たちに安心と安全を与えてくれる、警察、消防、医療費なども税金が支えている。私たちがこうして毎日整備された道路の上を通学し、学校で教科書を使って勉強し、何ひとつ不自由なく充実した毎日が送れる「あたりまえ」は税金というひとつの大きな存在が助けてくれているのである。

しかし今世界は重大な問題に直面しその「あたりまえ」だった生活が壊れ始めていると私は考えた。その問題とは新型コロナウイルス感染症（略称コロナ）だ。コロナは四月の中旬から下旬にかけて感染が拡大し今の国内感染者は六万三千九百八十六人、死者は千二百十八人にまで及んでいる。私はこのコロナ禍で税金の使い道はどのように使われているのか、またこの時だからこそ税金に対する考え方が変わってきているのではないかと考えた。

実際にコロナに対する経済対策として「一人十万円の一律給付」という対策が行われている。しかしこの政策だけで政府の支出は約十二兆円、財政赤字は百兆円超となる可能性も十分にあると考えられている。このような可能性から別の考えを提示する人も増えている。それは「一律の現金給付と消費税の一時停止」である。中でも消費税の停止は落ち込んだ景気を回復させるためには有効であると考えられている。私はこの話を聞いてとてもおどろいた。なぜなら税は私たちの「あたりまえ」となっている暮らしを支えるために必要不可欠な存在だと考えているからだ。

しかし実際にマレーシアでは消費税を停止し落ち込んだ景気を見事に回復したという。私は最初に税金がなければ少しは安くなる、と述べた。それはただ単に自分にかかる負担を減らしたいからという理由だ。しかしこのコロナ禍で本当に消費税をなくしてしまったら日本はどうなってしまうのだろうか。自分にかかる負担は減っても、国内にかかる負担は軽減するかも増加するかも分からない。もしかしたらそれは誰かの想像内では上手くいくかもしれないが実際にそういくとは限らない。そう考えるとやはり消費税に関してはそのままの方がいいのかもしれない。

私はまだ税の頭をかじったくらいで足の先まで理解できた訳ではない。もっと深く税について正しく理解して社会問題と税を関連させて詳しく知りたいと思った。

税のない世界は嫌だが、税の使い方をまちがった世界も嫌だ。多くの国民が税を正しく理解し、税に感謝できる社会になってほしいです。